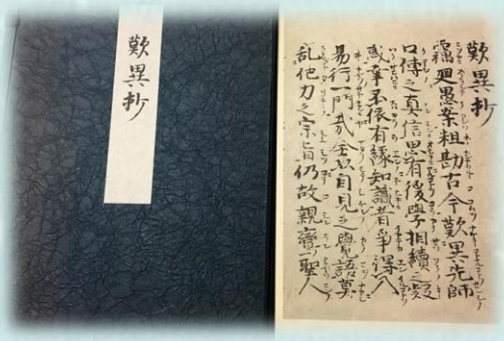
R3・4月期

歎異抄に学ぶ

今回は、歎異抄第15章から最後（後序）まで、たずね深めていきたいと思います。
歎異抄は、この第11章から最後の第18章までの後半の8章を、異義篇といいます。
親鸞の教えは、信徒たちの生きる支えとなっていきます。しかし年月を経るとともに、信徒の中から誤解が生まれ、混乱も生じていきます。
そのような誤解と混乱のなかで、親鸞の弟子であった唯円は、この誤解と混乱が親鸞の教えと異なることを嘆き、歎異抄を書いたのです。親鸞の教えの要を私たちに伝えようとしてくれている言葉を、学んでいきましょう。（全4回）

※途中からの受講も可能です。



講　師　同朋大学仏教文化研究所所員
川口　淳
受講日　第2土曜日　13:30～15:00
受講料　税込4ヵ月分　7，920円
持ち物　筆記用具

日程	カリキュラム
4月10日	第１５章　今生にさとりを開けるのか。
5月8日	第１６章　回心とは
6月12日	第１７章　浄土とは？　第１８章　善い行いとは？
7月10日	後序　まとめ

豊田 中日文化センター
〒471-0034 豊田市小坂本町1-25 豊田産業文化センター5階
Tel 0120-98-2841
www.chunichi-culture.com

受付時間　午前9時30分～午後6時30分まで（月曜定休、日曜日は正午まで）

Facebook
いいね！をお願いします！

お電話で予約のうえ、登録料500円＋税（中日文化センター会員の方は不要）と受講料を添えてお申込下さい。